

# 第8期

## 吹田健やか年輪プラン

(吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)

さあ！みんなで  
こんな未来をつくろう



令和3年(2021年)3月

吹田市

年齢を重ねても…

いきがい教室で  
フラダンスを習って  
いるの  
発表会が  
楽しみね



要介護認定を受けても…

自宅でタオル de 体操  
に挑戦中！  
続けるのが楽しくなっ  
てきたぞ



若い頃より体力は落ちたけど…

定年前に始めたテニス  
長く続けるために元氣  
で過ごさなくっちゃ



身近な地域で共にいきいきと安心・安全に

暮らせるまちをめざして…

～ずっと吹田で、ずっと元気に～



退職しても…

退職後、通学路の  
見守りボランティア  
をはじめたら  
いきいき  
していると  
言われる  
ように  
なりました



施設に入っても…

地域の人と一緒に  
夏祭りを楽しんだの  
次は秋の作品展に  
向けて  
編み物でも  
しようかな



認知症になっても…

地域の人が見守って  
くれるから  
安心してお出かけ  
できるのよ





はじめに

人口増加傾向の続く本市におきましても、国や大阪府より下回るものの、高齢化は進んでいます。令和2年（2020年）9月末日現在、65歳以上人口は89,411人、総人口に占める65歳以上の割合は23.8%ですが、2040年には30%を超え、総人口の約3人に1人が65歳以上になると見込んでいます。

本計画では、4年後の2025年、さらには団塊ジュニア世代がすべて65歳以上となる2040年を視野に入れ、現役世代の減少や介護サービス需要のピークに備え、制度・分野の枠や、従来の「支える側」「支えられる側」という関係性を超えて、人と人や社会がつながる地域づくりを進めていく必要があります。そのため、地域包括ケアシステムの構築とその先の地域共生社会の実現に向け、「身近な地域で共にいきいきと安心・安全に暮らせるまち～ずっと吹田で、ずっと元気に～」を将来像として掲げ、計画推進に向けた具体的取組をお示ししています。

また本計画では、第7期より引き続き、地域包括ケアシステムの構築に向けた具体的取組のイメージを「桶作り」に例えてお示ししています。住み慣れた地域での暮らしを支える器を「桶」に例え、「医療」「介護」「介護予防」「生活支援」などが「板」、「地域包括支援センター」は板をつなぎ合わせる役割である「箍（たが）」、「住環境」が「底」というイメージです。

年齢を重ねても、身近な地域で共にいきいきと、ずっと吹田で、ずっと元気に暮らしていただけるよう、この「桶」を段階的に大きく・強くしていくことが必要です。行政も全庁挙げて取り組んでまいりますので、市民や関係機関・団体の皆様方のより一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、本計画における現役世代（20～64歳）の負担をみると、2040年には1.8人で1人を支える見込みですが、仮に65～74歳も「支える側」とすると、4.3人で1人を支えることとなります。身近な地域で支え合えるよう、また本計画の将来像の実現に向け、多くの皆様がこの計画を手にしていただき、共に推進していただければ幸いです。

結びに、本計画の策定に当たり、活発なご議論と貴重なご意見をいただきました吹田市社会福祉審議会高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進専門分科会の委員の皆様をはじめ、実態調査にご協力くださった皆様、パブリックコメントをお寄せいただいた皆様、関係各位に心からお礼申し上げます。

2021年3月

吹田市

